

社会福祉学科						
科目名: 心理学統計法			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心の諸問題について収集されたデータを分析・解釈し、意味づけるための統計学的技術を習得する。					t検定、分散分析、相関分析、因子分析、 $\chi^2$ 分析	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			2. 5. 9.
A 知識・理解力	心理学統計法における基礎知識を理解している。					
B 専門的技術	利用者の生活ニーズをアセスメントするための情報分析技術を身に付けている。					
C 論理的思考力	人間の行動や心理について論理的に思考する力を身に付けている。					
D 問題解決力	問題解決のために収集された情報を分析・解釈できる。					
H コミュニケーション力	情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 与えられたデータを実際に統計処理しながら、スキルを身につけるアクティブラーニングで学びます。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時に学習到達度を個別にフィードバックし、必要のある学生に対しては補習を行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①尺度と代表値の理解と仮説検定の考え方			代表値と仮説検定についてまとめる	30		
②エクセルの基本とデータ入力の基本			データ入力方法の練習	120		
③平均値と標準偏差の算出方法とグラフの作図			代表値の算出と作図の練習	120		
④t検定の考え方			t検定についてまとめる	120		
⑤対応のないt検定の手順			対応のないt検定の練習	120		
⑥対応のあるt検定の手順			対応のあるt検定の練習	120		
⑦一要因被験者間分散分析の手順			被験者間分散分析の練習	120		
⑧一要因被験者内分散分析の手順			被験者内分散分析の練習	120		
⑨平均値の差の検定のまとめ			第1回～第8回までの総復習	180		
⑩二要因分散分析および交互作用の考え方			二要因分散分析についてまとめる	120		
⑪相関分析の考え方と手順			相関分析の練習	120		
⑫重回帰分析および因子分析の考え方			重回帰分析・因子分析をまとめる	120		
⑬クロス集計表の理解と作成			クロス集計表の練習	120		
⑭ $\chi^2$ 乗検定の考え方と手順			$\chi^2$ 乗検定の練習	120		
⑮相関および名義尺度データについての分析のまとめ			第9回～第14回までの総復習	180		
使用テキスト: ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで—、田中敏・山際勇一郎(著)、教育出版株式会社、ISBN978-4-316-32901-7			その他参考文献など: 村井潤一郎・柏木恵子(著)ウォームアップ心理統計[東京大学出版会]; 丸山欣哉・佐々木隆之・大橋智樹(著)学生のための心理統計法要点[おうふう]			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 統計学を学ぶには、実際にデータを自ら分析・処理してみる以外の近道はありません。自分でデータ分析を行なうアクティブラーニングで学びます。事後学習での練習が大切です。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 社会心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
私たちは常に人との関わりの中で生活を送っている。言い換えれば、私たちの行動や心理は常に社会からの影響を受けている。個人と社会の影響過程について、身の回りの日常的問題意識の観点から理解する。					対人関係、リスク管理、意思決定、リーダーシップ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.	
A 知識・理解力		社会心理学の基礎知識を身に付けている。			
C 論理的思考力		社会の中で生きる人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解できる。			
H コミュニケーション力		情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身に付けている。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方型授業を行います。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学習到達度を毎回フィードバックする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①授業概要説明:「社会心理学とは」			社会心理学と他の領域との関係についてまとめる	30	
②自己を知るⅠ:社会的自己			クエス1:社会的自己	180	
③自己を知るⅡ:認知的不協和理論			クエス2:認知的不協和理論	180	
④行為の原因を知るⅠ:原因帰属理論			クエス3:原因帰属理論	180	
⑤行為の原因を知るⅡ:態度			クエス4:態度	180	
⑥「私たち」と「あの人たち」:偏見と差別			クエス5:偏見と差別	180	
⑦個人と集団の利益:社会的ジレンマ			クエス6:社会的ジレンマ	180	
⑧コミュニケーションと自己呈示			クエス7:コミュニケーションと自己呈示	180	
⑨異文化コミュニケーション			クエス8:異文化コミュニケーション	180	
⑩他者への行為Ⅰ:怒りと攻撃			クエス9:怒りと攻撃	180	
⑪他者への行為Ⅱ:援助行動			クエス10:援助行動	180	
⑫集団から個人への影響:ソーシャルインパクトと権威への服従			クエス11:集団からの影響	180	
⑬個人から集団への影響:リーダーシップ			クエス12:リーダーシップ	180	
⑭ヒューマンエラーとリスクマネジメント			クエス13:ヒューマンエラー	180	
⑮社会的公正と集合行動			ボスレベルクエス	180	
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な資料は図書館等で自分で入手してください。			その他参考文献など:ロジャーR.ホック(編)梶川達也(監訳)心理学を変えた40の研究[ピアソン・エデュケーション]; ローレン・スレイター(著)岩坂彰(訳)心は実験できるか[紀伊国屋書店]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):クエス型授業によるアクティブラーニングで学びます。心理学理論は、自分の日常生活と結びつけて理解することで生きた知識となります。ぜひ自発的に学習を行ってください。					

## 看護学科

科目名: 体育と運動生理			担当教員 氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	総合科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		本講義では、健康増進施設での運動指導経験と競技スポーツにおける指導者として経験を活かし、人体の仕組みについて科学的に理解し、幅広い知識を持って健康・体力づくりについて理解し、実践できるようにする指導を行うものとする。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
人体の仕組みについて科学的に理解し、幅広い知識を持って健康・体力づくりについて理解し、実践できるようにする。特に生活習慣病予防や介護予防のための運動処方や実践方法について理解を深める。					運動・健康生理学 介護予防運動
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 7. 9	
A 知識・理解力		人体の仕組みについて生理学的に理解ができる。			
B 専門的技術		人体の仕組みについて生理学的に理解し、医学(看護)と運動を関連付けることができる。			
D 問題解決力		疾病や予防のために必要な健康・体力づくりについて生理学的に理解できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50%	レポート: 30%	発表: %	実技試験: 20%	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間評価および全体振り返り時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: クラスルーム及びGoogleフォームを利用して実施。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①我が国の健康づくり施策と現状について			【復習】我が国の健康づくりについて理解する	30分	
②運動の継続と実践への取組みについて			【復習】運動継続のポイントを理解する	30分	
③トレーニングの原理・原則とトレーニング方法について			【復習】トレーニング方法を理解する	30分	
④生活習慣病と運動について			【復習】生活習慣病について理解する	30分	
⑤簡易健康・体力測定と運動の実践: ウォーキングテスト・健康確認			【復習】体力測定方法について理解する	30分	
⑥高齢期の健康・体力と運動について			【復習】高齢期の運動特性を理解する	30分	
⑦幼児期の健康・体力と運動について			【復習】幼児期の運動特性を理解する	30分	
⑧実技テスト: 持久系テスト(中間振り返り)			【復習】自分の体力について理解する	30分	
⑨体力の概念について			【復習】体力の概念について理解する	30分	
⑩神経系の役割について			【復習】神経系の働きについて理解する	30分	
⑪エネルギーの産生について			【復習】体を動かすエネルギーについて理解する	30分	
⑫筋系の特性と機能について			【復習】筋肉の特性について理解する	30分	
⑬酸素運搬能力について(呼吸循環系)			【復習】酸素運搬能力について理解する	30分	
⑭運動の効果について			【復習】運動の効果について理解する	30分	
⑮まとめと振り返り			【予習】看護現場における運動の知識をまとめる	30分	
使用テキスト: 随時プリント等で配布します。			その他参考文献など: ・健康・運動の科学(講談社) ・運動とスポーツの生理学(市村出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 理解できない点があればその時点で質問することを勧めます。 ・簡単な体力測定を実施します。(ウォーキングテスト・シャトルラン・簡易体力測定・筋力トレーニング実践)					